

## 汎用的能力は評価することができるのか

企画者・司会者・話題提供者：松下佳代（京都大学高等教育研究開発推進センター）

話題提供者：深堀聰子・長沼祥太郎（九州大学教育改革推進本部）

話題提供者：平山朋子・斎藤有吾（藍野大学医療保健学部）

話題提供者：飯尾 健・溝口 侑・澁川幸加・杉山芳生・大森俊典・岩田貴帆・

周 孝誠・梁 琳娟（京都大学大学院教育学研究科）

大学教育では近年、汎用的能力の育成・評価が重視されている。本セッションでは、汎用的能力に関する多様な評価方法を取り上げ、それらが、①汎用的能力をどのように捉えているか、②その評価方法にはどんな特徴と問題があるか、③その問題はどうか克服されようとしているか（それでもなお残されている課題は何か）、を明らかにする。

### 「学習成果の評価の枠組み—分野固有性と汎用性をめぐって」

松下佳代

近年、汎用的能力を評価するための質問紙やテストが開発・実施されているが、質問紙のような間接評価は直接評価の代替とはなりえず、また、テストでは統合的な能力の評価は困難である。一方で、パフォーマンス評価を用いるとすれば、それが分野固有性だけでなくどう汎用性を獲得しうるかを明らかにする必要がある。本報告ではまず、学習成果の枠組みを提示し、問題を整理する。

### 「ジェネリックスキルの評価—CLAとCLA+の相違」

澁川幸加・大森俊典

パフォーマンス課題を用いたジェネリックスキルの評価として、CLAとその改訂版であるCLA+の相違を紹介する。CLA+では、新たに「科学的かつ量的な推論」と「批判的な読解と評価」のスキルが追加された。また、学生に対する開示や、機関による使用方法の多様化など、評価結果の活用方法が拡大された。両評価手法の比較を通して、残された課題について整理する。

### 「工学分野における考える力を測定する試み」

深堀聰子・斎藤有吾・長沼祥太郎

「技術者のように考える力（工学分析、工学デザイン、工学実践、工学ジェネリックスキル）」を、技術分野の実践的課題を題材とした記述式問題によって測定する試みについて紹介する。なぜこのような測定ツールが必要なのか、また実践的課題解決に動員される複数のコンピテンスをいかに識別しながら総合的に捉えるのか、さらにいかに

に有意な情報を実施機関や学生に還元することができるのかに関する論点を整理する。

### 「医療系のパフォーマンス評価と標準テスト・質問紙調査の関係—藍野大学・新潟大学の事例から」

斎藤有吾・平山朋子・松下佳代

近年、汎用的な学習成果の可視化のために多用されている標準テストや質問紙調査は、当該分野の学習を通して獲得される汎用的能力を捉えることができるのか。医療系分野において開発されたパフォーマンス評価と、汎用的能力を捉えるための標準テスト・質問紙調査との相関関係を、2つの事例から検討し、上記の問いに迫る。

### 「IB(国際バカロレア)における課題論文の評価」

岩田貴帆・杉山芳生・周孝誠・梁琳娟・溝口侑

IBのディプロマ・プログラム(DP)における「課題論文(EE)」は中等教育の例だが、高等教育における汎用的能力の評価を検討するにあたり、参考にすることができる。生徒は、DPを通して育む汎用的能力を用いてEEに取り組み、「焦点化と方法論」「知識・理解」「批判的思考」「プレゼン」「エンゲージメント」の5観点の評価基準で成果物が評価される。特徴として、選んだ研究分野に応じて評価基準の各観点の解釈がどのように異なるかが指導の手引きにおいて詳細に説明されていることが挙げられる。分野ごとの基準の解釈を比較することによって、EEが評価しようとする能力の汎用性と分野固有性について論じる。

### 「各評価方法の比較と残された課題」

飯尾 健・澁川幸加

本報告では、これまでの報告の中で取り上げた評価方法の比較を試みる。比較の視点としては、それぞれの評価方法の開発の背景と目的、評価しようとする能力の概念やその内容(例:批判的思考、問題解決)、およびその中の汎用性と分野固有性との関係、評価課題や評価基準の特徴、評価結果の活用、残された課題等に焦点を当てる。